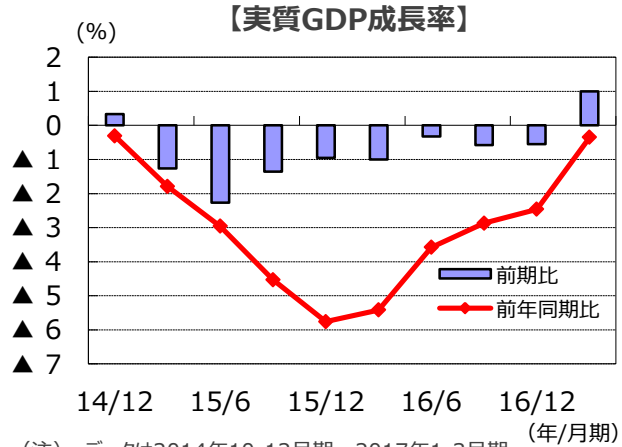


今日のトピック ブラジル 9四半期ぶりのプラス成長

改善が続くブラジル経済

ポイント1 1-3月期のGDP成長率は前期比でプラス成長

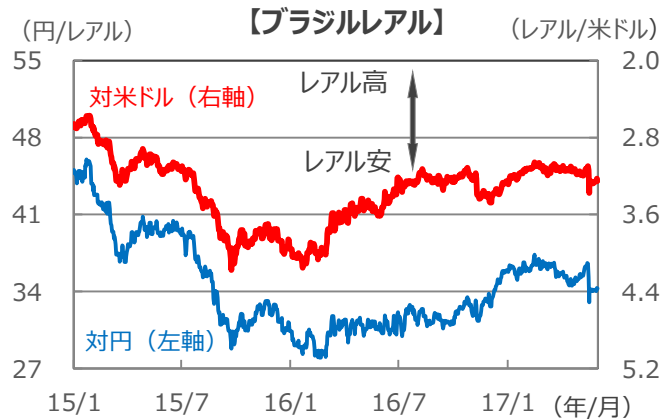
- 1日発表された2017年1-3月期の実質国内総生産（GDP）は前期比1.0%増となり、9四半期ぶりにプラス成長に転じました。前年同期比では▲0.4%と依然マイナスですが、2015年10-12月期の▲5.8%を底に改善傾向にあります。
- 1-3月期は、農業部門が大幅に伸び、鉱工業や家計消費も緩やかながらも持ち直し傾向が続いています。



(注) データは2014年10-12月期～2017年1-3月期。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 今後も経済の改善が続く見込み

- ブラジル経済の改善を支えているのは16年5月に発足したテメル政権が進める経済・財政改革と、インフレ低下を受けた中央銀行の金融緩和です。
- ブラジルは5月31日に1.00%の利下げを行い、政策金利を10.25%としました。政策金利は16年10月の利下げ開始時の14.25%から、累計して4.00%引き下げられており、経済活動に前向きな影響が期待できます。
- 一方、経済・財政改革は、ここもとテメル大統領に不正疑惑が浮上しているため、改善が進まない可能性が懸念されます。



(注1) データは2015年1月1日～2017年6月1日。
(注2) (レアル/米ドル) は逆目盛。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 金融市場は改革を見極める段階へ

- ブラジルの為替や金融市場は、テメル政権の経済・財政改革と景気の改善期待を織り込む形で、16年以降好調に推移してきました。今後も経済の改善が追い風となるのが期待できる一方、経済・財政改革の中心テーマとなっている年金改革が十分な進捗を遂げることが出来るかが課題となりそうです。政治の安定性と合わせて今後の推移が注目されます。

ここもチェック! 2017年6月 1日 ブラジルの金融政策（2017年5月）
2017年5月19日 テメル・ブラジル大統領に辞任・弾劾の可能性が浮上

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。